

ロングアーム本縫自動糸切り付きミシン

TL-2200QVP

取扱説明書

注意:

JUKIのミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧になれますように保管してください。
<http://www.juki.co.jp/>

この度は、本製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります		手などへの傷害の危険があります
	してはいけないこと		分解、改造をしないでください		針の下に指を入れないでください		
	必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください				

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。

 警告	感電、火災、故障の原因となります。	
	<ol style="list-style-type: none"> 一般家庭用交流電源100Vの電圧以外では、使用しないでください。 アース接続（接地）を確実に実施してください。 アース端子付きコンセントがないときは、電気工事店にアース工事（D種接地工事）を依頼してください。 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ● ミシンのそばを離れるとき。 ● ミシンをご使用になったあと。 ● ミシンのご使用中に停電したとき。 ● ミシンをお手入れするとき。 ● ミシンを移動させるとき。 ● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。 ● 雷が鳴りはじめたとき。 	
 注意	感電、火災、けが、故障の原因となります。	
	<ol style="list-style-type: none"> 座り仕様で添付されるコントローラーの上に物をのせないでください。 	

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. けが、針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。
7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご使用していただくことをご注意ください。
8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 下糸、上糸をセットするとき。
 - 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
9. ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
 - 異物が入ったとき。
11. 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
12. 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
13. 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
14. 電源プラグやコントローラーを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
15. 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
16. スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。

17. ミシン本体の内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。
18. 針の下に指などを入れないでください。
19. ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
20. ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。



警告

特に、布地と糸と針の組み合わせは、P21の「布地・糸・針の関係」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。
組み合わせが適切でない場合、針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シンナーなどの溶剤でふかないでください。

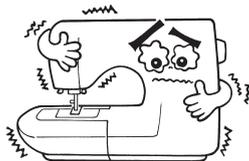


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンはマイクロコンピューター、半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



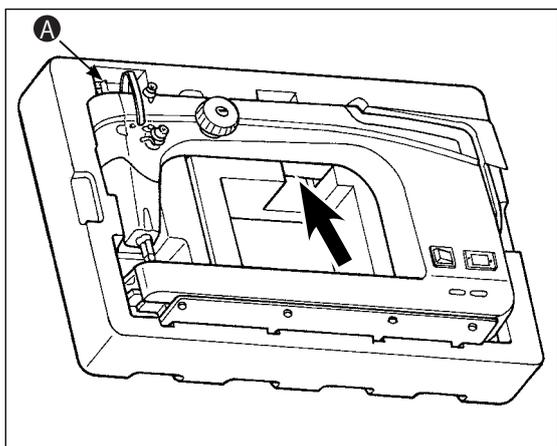
- 長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、安全装置が働き、ミシンが止まるようになっています。

このときは、電源スイッチをOFFにし、しばらく後に電源スイッチをONにしてください。



※ミシンの使用温度は5℃～40℃です。直射日光の当たるところや、ストーブ、ろうそくなど火の気のあるものそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。

ミシンを運ぶ



■ ミシンを取り出す

⚠ 注意

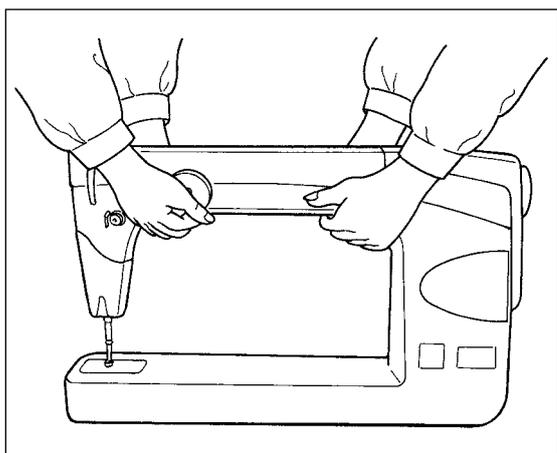
押え調整ネジ^Aを持ってミシンを引き上げると、ミシンが破損するおそれがあります。

また、物理的な衝撃を受けた時、押え調節ネジが壊れてしまう恐れがありますので、注意してください。

発泡スチロールの切り欠きからアームを持ち上げて、ミシンを取り出します。

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にして、必ずコンセントからプラグを抜いてください。



■ ミシンを持ち運ぶ

⚠ 注意

1. ミシンが回転するため、はずみ車(プーリー)を持たないでください。
2. ミシンは26kgあるため、運ぶ時は常に二人以上で行ってください。
3. 針棒や押え棒の近くを持たないでください。破損するおそれがあります。

図のように、二人でミシンのアーム部分を持って運びます。

アースの取り付けについて

本製品は、アース接続（接地）をする必要があります。誤作動や故障で漏電したときにアースが電流を逃がすため、感電する危険が少なくなります。本製品の電気コードのプラグには、アース端子が付いています。法令や条例に従って、コンセントに正しくプラグをつないでください。

危険 - アース線を正しく接続しないと、感電の危険があります。

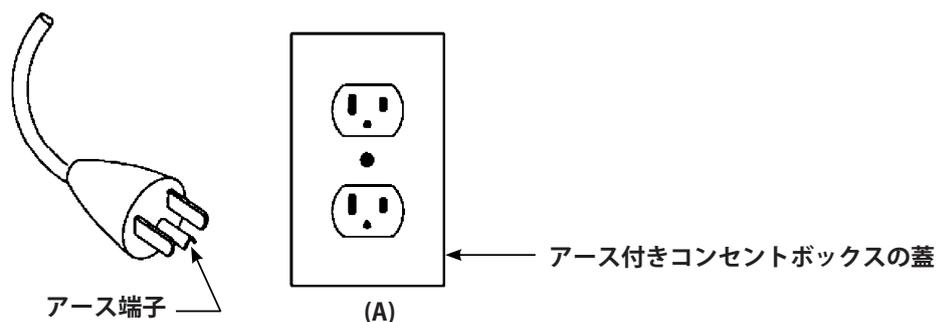
アース線は、緑または黄色のストライプの被膜で絶縁されています。コードやプラグの修理や交換が必要な場合は、コンセントにアース線を接続しないでください。

取り付け方法や、適切に取り付けられているかがご不明な場合は、お買い上げの販売店または電気工事士の有資格者にご確認ください。

製品に付属しているプラグを改造しないでください。プラグがコンセントに合わない場合は、電気工事店にアース工事（D種接地工事）を依頼してください。

本製品は、ワールドボルテージ仕様です。図1（A）に示す通り、プラグにアース端子を内蔵しています。

図1



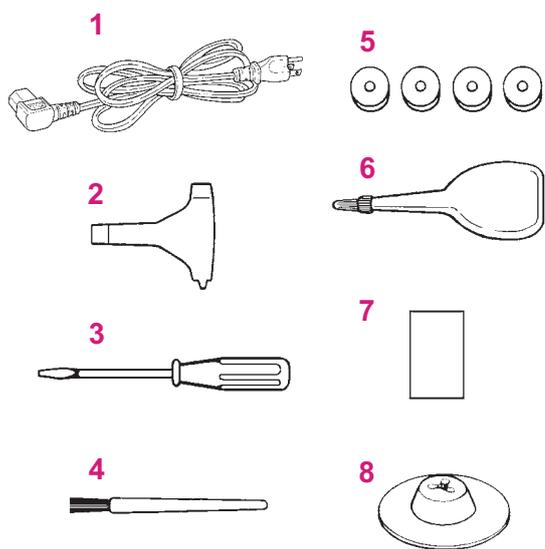
目次

安全にご使用していただくために.....	1-3
ミシンを運ぶ.....	4
アースの取り付けについて.....	5
仕様表.....	7
付属品.....	8
ご使用までの流れ.....	9-11
各部のなまえ.....	12
なまえとはたらき.....	13-17
下糸を巻く.....	18-21
上糸を通す.....	22
糸調子を調整する.....	23
布地・糸・針の関係.....	24
押え上げレバー.....	24
針を取り付ける.....	25
お手入れ.....	25
ミシンのお手入れと注油.....	26
困ったとき.....	27

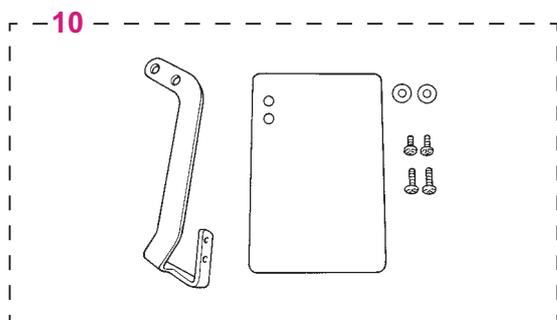
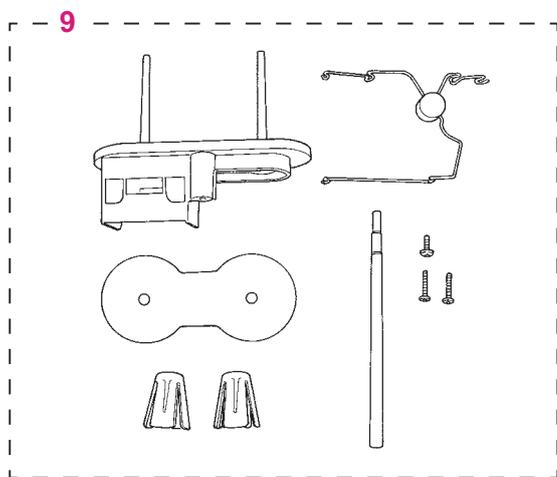
仕様表

項目	仕様
ぬい速度	最高 毎分2,200針
針棒のストローク	35mm
押えの高さ	5.5mm
針	GB 134R
潤滑油	New Defrix Oil No.1
本体寸法	幅22.2 x 高さ46.0 x 奥行73.0 (cm)
本体重量	26 kg
定格電圧/消費電力	AC100V-AC240V/1.2A-0.8A, 50/60Hz

付属品

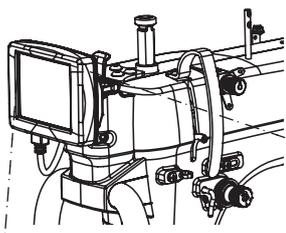
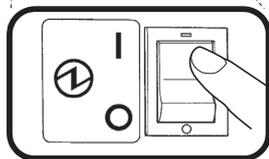
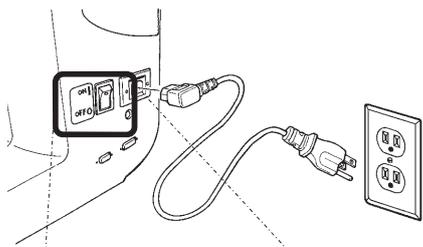


1. 電源コード (別梱包)
2. 専用ドライバー
3. ドライバー (小)
4. 掃除用ブラシ
5. ボビン (4個)
6. 油さし
7. 針 (GB 134R #18)
8. 糸こま押え
9. 糸立て台キット
(糸立て台、糸立て糸案内、下糸巻き棒、糸巻当て座、スプールクッション (2個)、止めネジ大、止めネジ小 (2個))
10. 安全カバーキット
(安全板、安全板取り付け板、座金 (2個)、止めネジ大 (2個)、止めネジ小 (2個))
11. 糸案内棒
12. マスキングシール



ご使用までの流れ

■ ご使用いただくには



立ち仕様画面

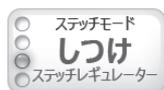
座り仕様画面



- 1) 電源コードを差し込んで、
ミシン本体のスイッチをONします。
『本書』に記載されています。

- 2) 操作パネルで設定をします。
最高ぬい速度や、ぬい終りの自動糸切りON/OFFなどの設定をすることができます。
詳しくは、
『ぬい目調整装置取扱説明書（立ち仕様）』または、
『ぬい目調整装置取扱説明書（座り仕様）』
をご参照ください。

<1. 立ち仕様>



① 最高ぬい速度設定

ミシンの最高ぬい速度を5%刻みで設定することができます。

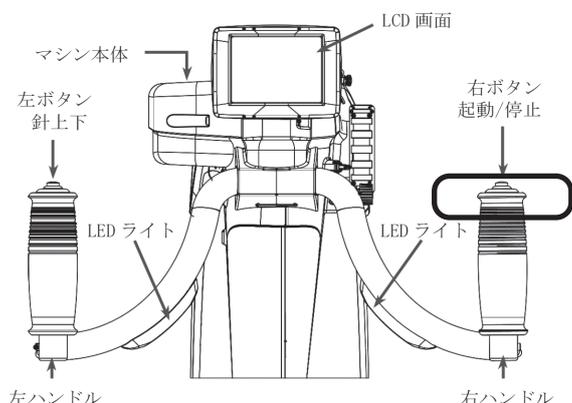
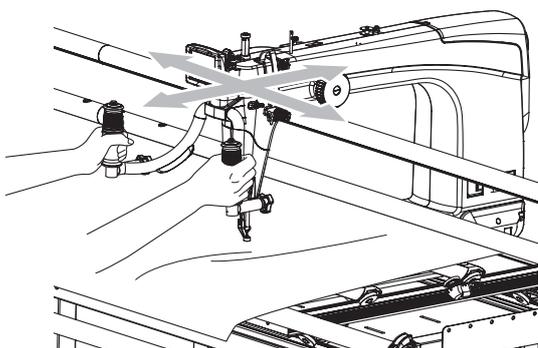
② ステッチモード設定

・クルーズ：

右ハンドルの「スタートボタン」を押すと、設定された最高ぬい速度でぬい始めます。
ハンドルを持ってミシンを動かすと、設定されたSti/Incのぬい目の長さを維持するように自動でミシンのぬい速度が調整されます。

・しつけ：

右ハンドルの「スタートボタン」を押し、ハンドルを持ってミシンを動かすと、設定したぬいピッチでぬい目を形成します。



- ・プリサイス：
右ハンドルの「スタートボタン」を押してもミシンは運転をはじめません。ハンドルを持ってミシンを動かすと、動かした距離に応じてぬい目が一定に形成されるようにミシンが自動で運転します。
- ・マニュアル：
右ハンドルの「スタートボタン」を押すと、設定された最高ぬい速度でぬいはじめます。

③ 糸切り

ここを押すと、自動糸切り装置が作動します。

※ ミシンを運転します。
立ち仕様はミシンを動かしながら、ぬいます。

右ハンドルの「スタートボタン」を押すと、設定したモードに従ってミシンが運転を開始します。

「スタートボタン」をもう一度押すと、ミシンの運転が停止します。

⚠ 注意

- ・ キルティングフレームの上に重いものを乗せたり乗ったり、通常の縫製以外にかかる重さをかけないでください。
- ・ ミシンを動かしてぬうので、周りの人や物に注意してください。
- ・ キルトフレームを組み立てた状態で移動させると、部品が破損したり曲がったり、ミシン頭部が落下するおそれがあります。移動させるときは、組み立てる前の状態まで分解し、設置する場所で組み立て直してください。

※ キルトフレームを分解したとき、フレームや連結部品などに尖って危険な金属の粉が発生し、けがをしますおそれがあります取り除くときは、付属のドライバーなどを使用してください。

<2. 座り仕様>



① 最高ぬい速度設定

ミシンの最高ぬい速度を5%刻みで設定することができます。

② オート糸切り機能

ぬい終わると、自動で糸を切ります。

③ 運転とマニュアル糸切り

フットコントローラー（ペダル）のA部を踏み込むと、ミシンが運転を開始します。

A部を踏み込んだ量に応じて、ミシンの運転速度が速くなります。

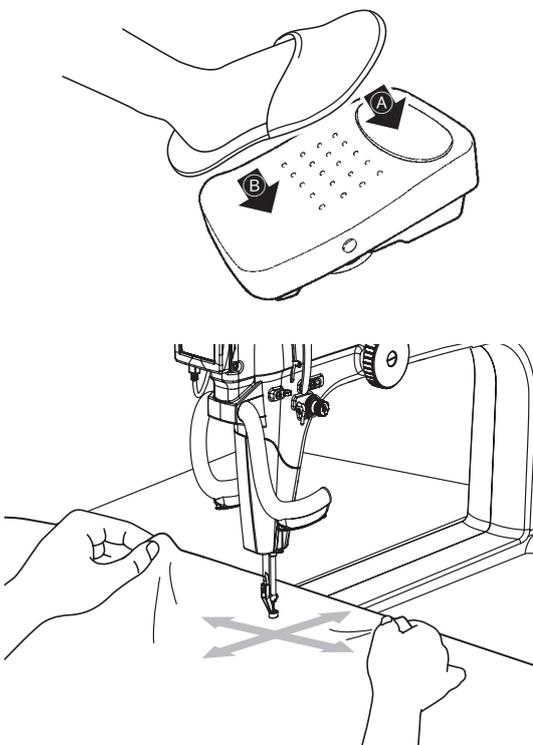
A部から足を離すとミシンの運転は停止し、B部を押すと糸を切ります。

※ミシンを運転します。

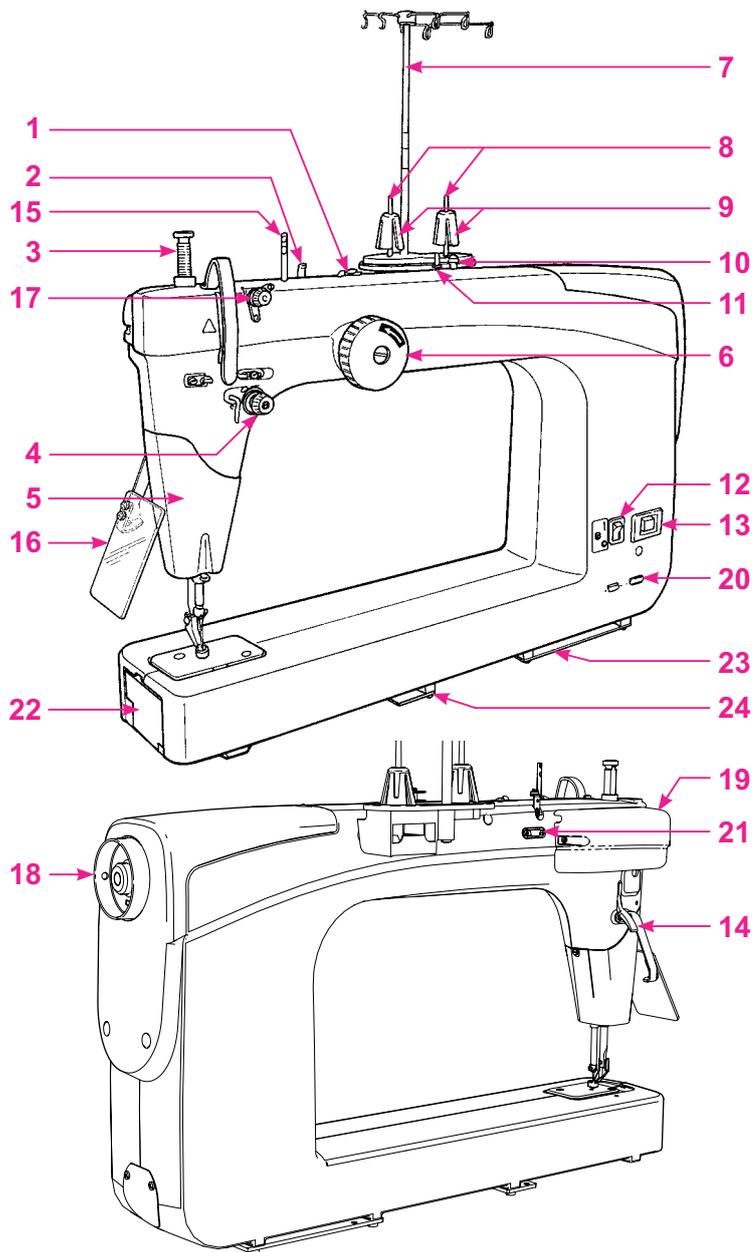
座り仕様は、フットコントローラー（ペダル）を踏み込みながら、布を動かしてぬいます。

⚠ 注意

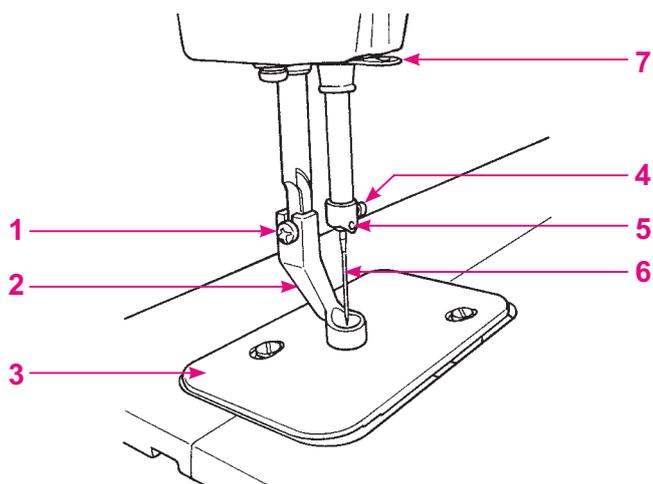
※けが、針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。



各部のなまえ

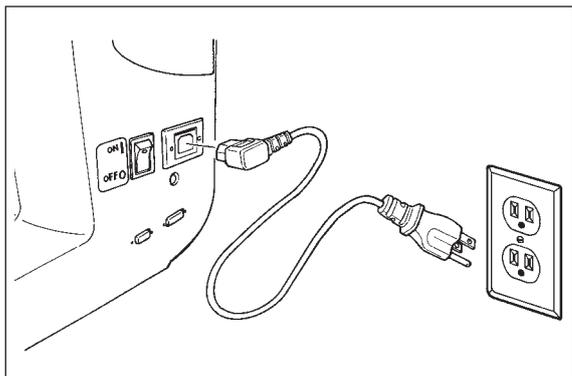


1. 糸切り固定板
2. 下糸巻き案内
3. 押え調整ネジ
4. 糸調子つまみ
5. LEDライト (内蔵)
6. 側面のはずみ車 (プーリー)
7. 下糸巻き棒
8. 糸立て棒
9. スプールクッション
10. ボビン押え
11. 下糸巻き軸
12. 電源スイッチ
13. 電源ジャック
14. 押え上げレバー
15. 糸案内棒
16. 安全カバー
17. 第一糸調子つまみ
18. はずみ車 (プーリー)
19. 押えストローク調節装置のカバー
20. めい目調整装置 (ステッチレギュレーター) 接続部
21. パネルコード接続部
22. かまカバー
23. 接続板 (大)
24. 接続板 (小)



1. 押え止めネジ
2. 押え
3. 針板
4. 針止めネジ
5. 針棒糸掛け
6. 針
7. 針棒糸案内

なまえとはたらき



■ 電源コードを取り付ける

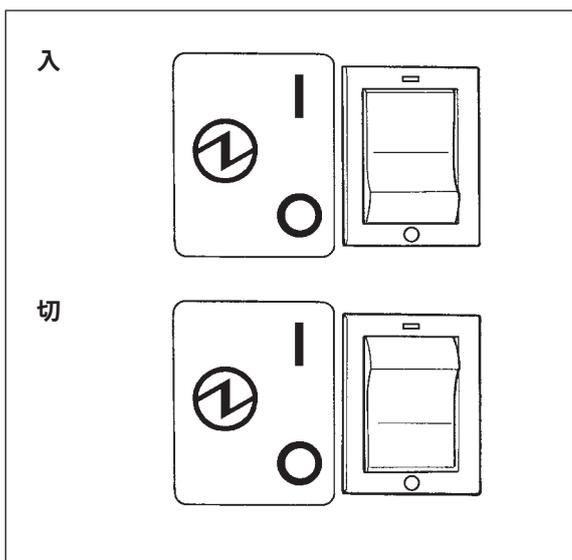
電源ジャックに電源コードを差し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にするまでは、電源プラグをコンセントに差したり抜いたりしないでください。

ミシンを使わないときは、以下の手順を行ってください。

1. 電源スイッチを「切」(○側)にする。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。



■ 電源を入れる

「↑」側にスイッチを押すと、電源が入ります。

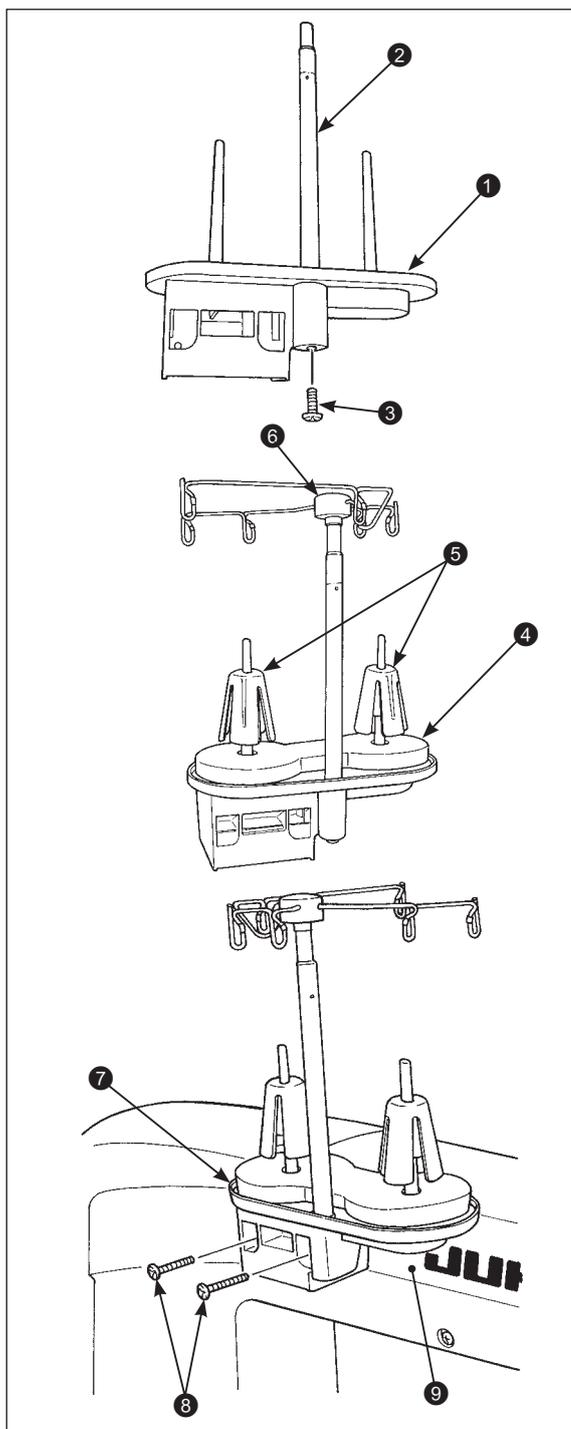
「○」側にスイッチを押すと、電源が切れます。

■ 糸立てを取り付ける

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にして、コンセントからプラグを抜いてください。

1. 下糸巻き棒②を糸立て台①に差し、止めネジ大③で固定します。
2. 糸巻当て座④と2つのスプールクッション⑤を糸立て台①に取り付けます。
3. 糸立て糸案内⑥を下糸巻き棒②の上に取り付けます。
4. 糸立て⑦をマシン⑨に取り付け、2個の止めネジ小⑧で固定します。

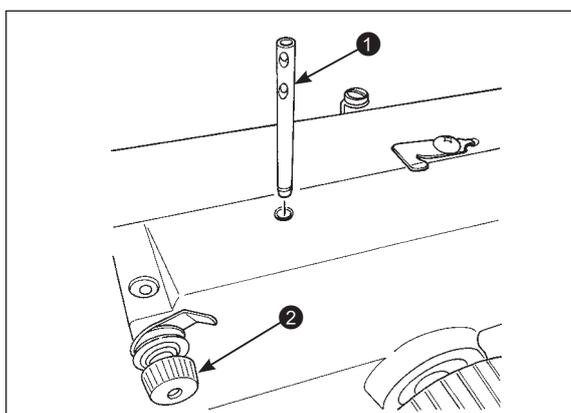


■ 糸案内棒を取り付ける

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にして、コンセントからプラグを抜いてください。

- 糸案内棒①をマシンに差し、糸案内棒の穴を第一糸調子つまみ②の方へ向けます。糸案内棒が穴からずれないように、ドライバーの持ち手の部分で軽く上から叩いて取り付けてください。

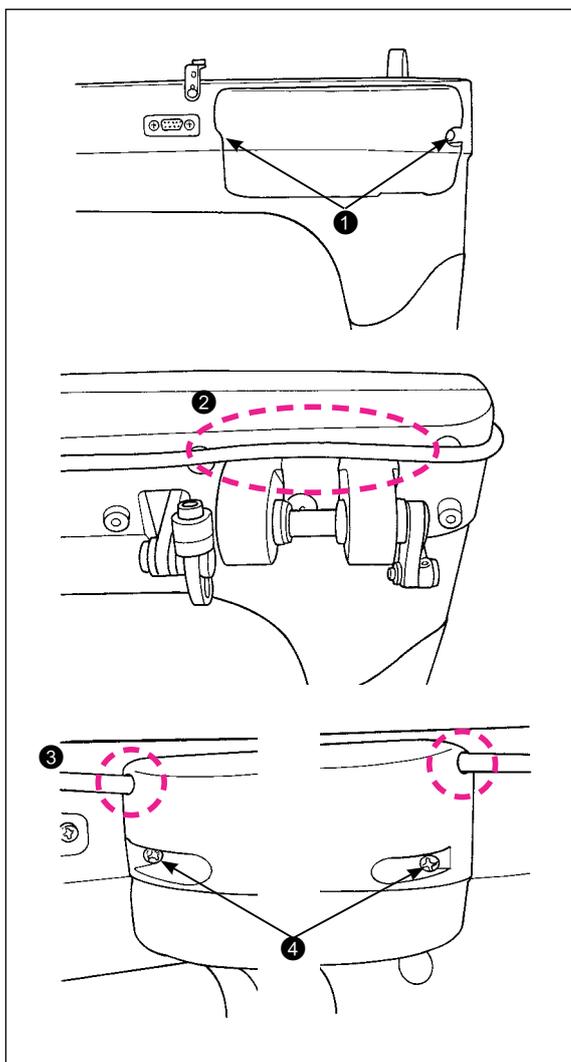


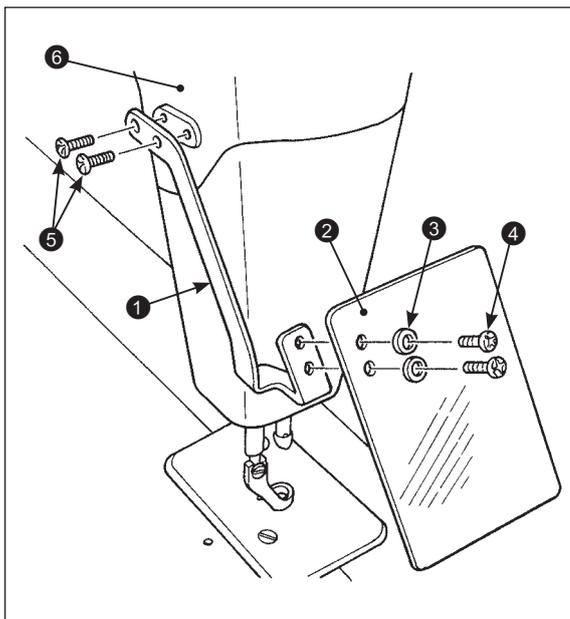
■ パネルコードを取り付ける

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にして、コンセントからプラグを抜いてください。

- ① 2個の止めネジを押えストローク調節装置のカバーから取り外して、押えストローク調節装置のカバーを外します。
- ② 図のように、パネルコードを配置します。
このとき、パネルコードが機械の部品に触れないようにしてください。
- ③ パネルコードとカバーのみぞを合わせます。
- ④ 押えストローク調節装置のカバーを取り付けて、止めネジで固定します。





■ 安全カバーを取り付ける

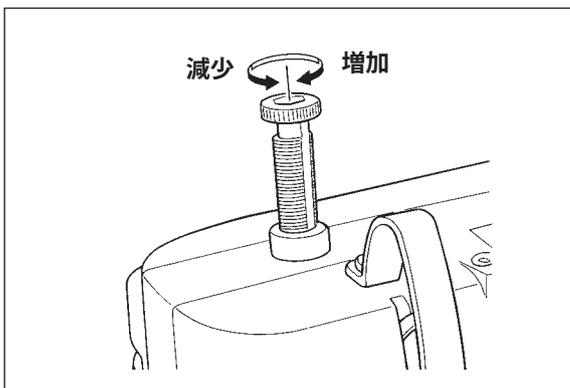
⚠ 注意

電源スイッチを「切」（○側）にして、コンセントからプラグを抜いてください。

⚠ 危険

破損した針で目をけがしないように、必ず安全カバーを取り付けてください。

1. 図のように、安全カバー取り付けプレート①に、安全カバー②と座金③を止めネジ④で固定します。
2. 2個の止めネジ⑤で、安全カバー取り付けプレート①をミシン⑥に取り付けます。

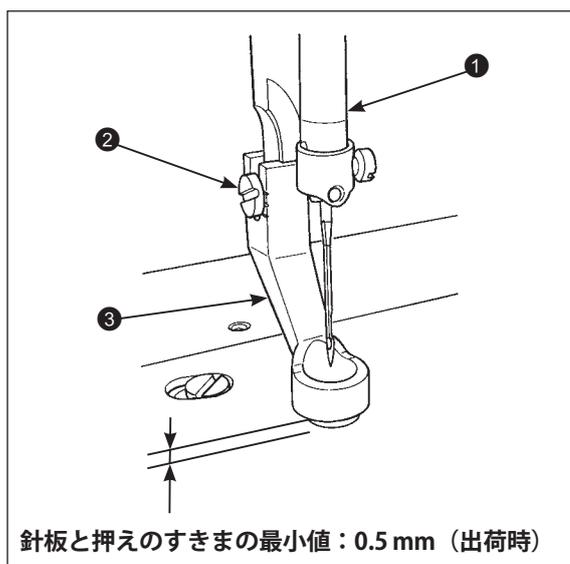


■ 押え調節ネジと表示マーク

⚠ 注意

電源スイッチを「切」（○側）にしてください。

押え調節ネジを回して、押えの圧力を調整します。



■ 押えの高さを調整する

⚠ 注意

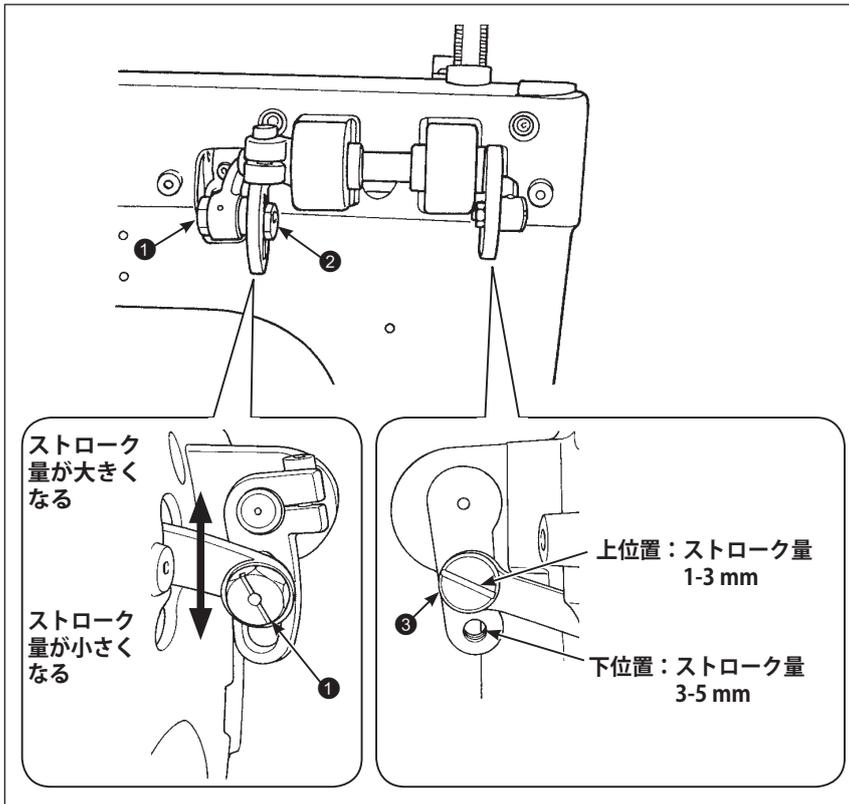
電源スイッチを「切」（○側）にして、コンセントからプラグを抜いてください。

布の厚みによってミシンがスムーズに動かないときは、押えの高さを変える必要があります。

針棒①を一番下までおろします。止めネジ②をゆるめて、押え③の高さを調整します。針板と押えのすきまの最小値は、工場出荷時は0.5 mmに調整されています。

⚠ 注意

押えの位置が高すぎるとぬうことができません。



■ 押えのストローク量を調整する

押えのストローク量を調整することができます。

押えストローク調節装置のカバーを外します。

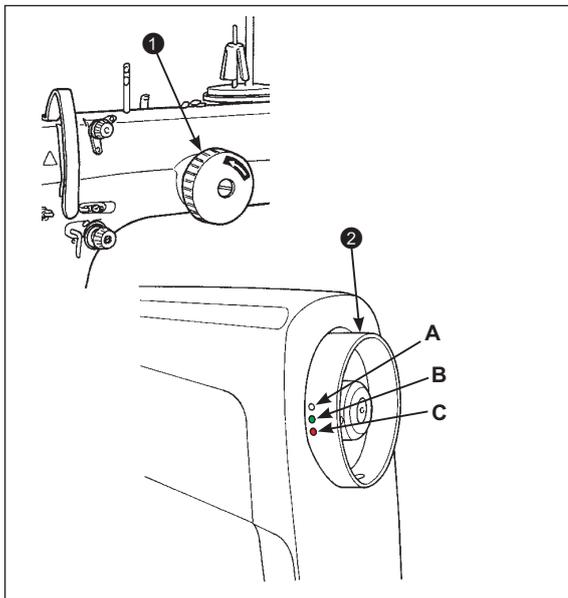
ナット①をゆるめます。レバー②の位置を上にするると押えのストローク量は大きくなり、下にするると小さく調整できます。

押えのストローク量をより大きくするときには、連結アームの止めネジ③を下位置に変えます。（ストローク量：3-5 mm）工場出荷時の設定は、上位置に固定されています。（ストローク量：1-3 mm）

調整が完了したら、調整前に外した押えストローク調節装置のカバーを取り付けてください。

⚠ 注意

押えのストローク量を変えると、針板と押えのすきまも変わります。素材の厚みに適した押えの高さに調整し直してください。



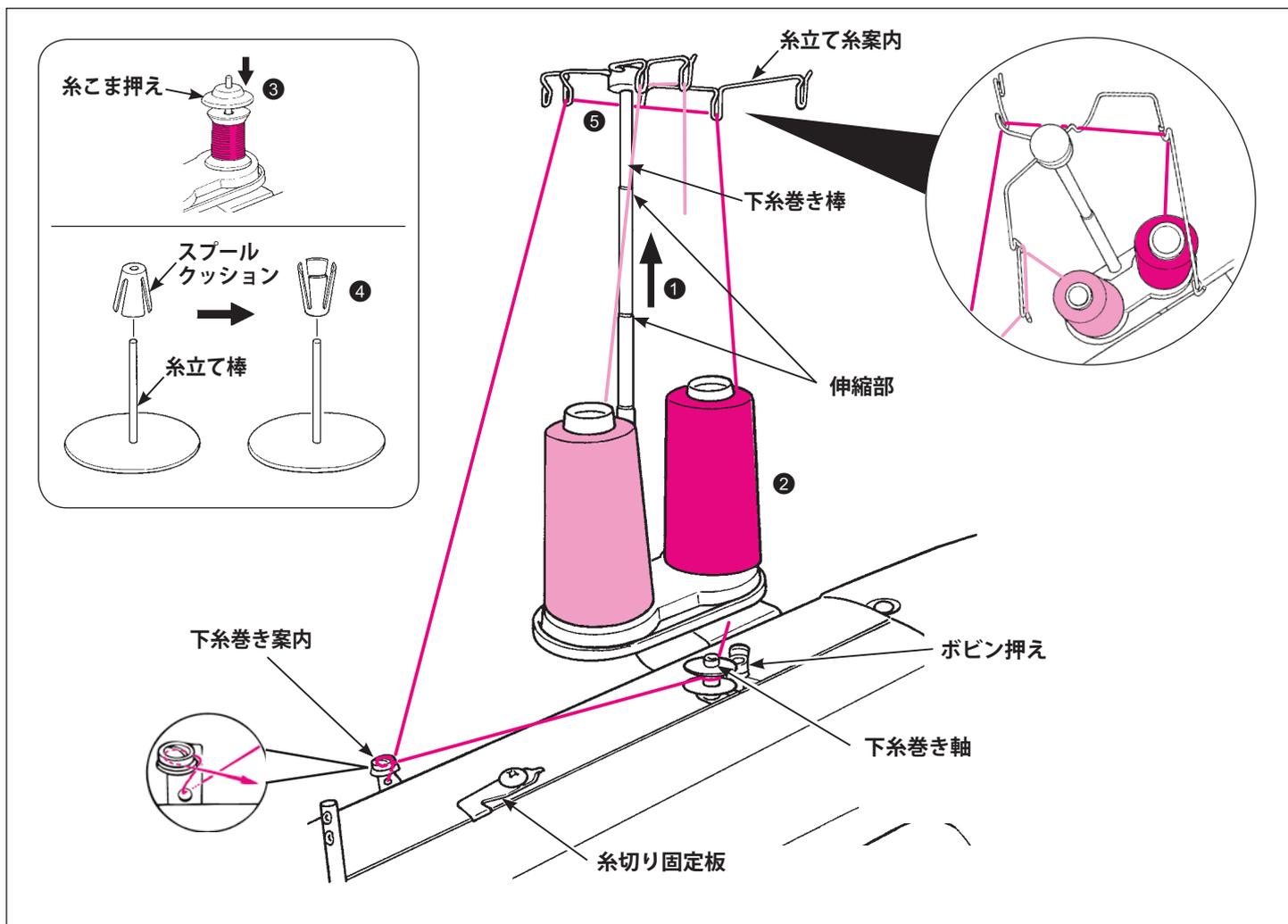
■ はずみ車（プーリー）の使い方

⚠ 注意

ミシンの縫製中は、はずみ車（プーリー）から手をはなしてください。

- ① メインシャフトを回すときは、側面のはずみ車（プーリー）を押し回します。
- ② 電源スイッチを入れます。はずみ車（プーリー）の白い印が、ミシンを真横から見たときに真正面にくるようにします。
 白い印（A）が前面：天びんが一番高い位置まで上がります。
 緑の印（B）が前面：使用しません。
 赤い印（C）が前面：潤滑油をさすとき、目印として使用します。

下糸を巻く



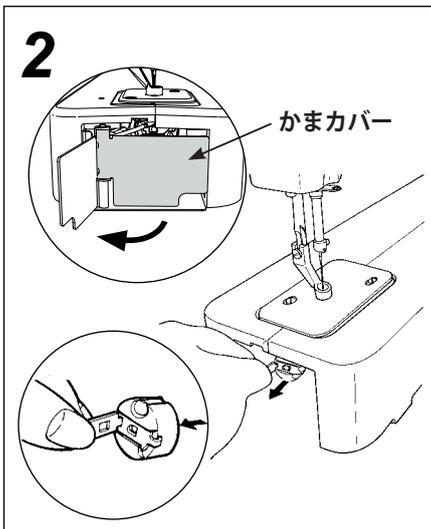
1 糸の通し方。



注意

電源スイッチを「切」(○側)にしてください。

- ① 下糸巻き棒を伸縮部がかみ合うまで伸ばします。
- ② 背の高い糸こまは、スプールクッションを糸立て棒に差し込んでから糸こまを差してください。
- ③ 小径の糸こまは、糸立て棒に立ててから糸こま押えを差し込んでください。(スプールクッションは使用しません)
- ④ 大径の糸こまを使う時は、糸こまを安定させるため、逆さまにしたスプールクッションを糸立てに差し込んでください。
- ⑤ 糸立て糸案内に上図の通り、糸こまからの糸を通します。

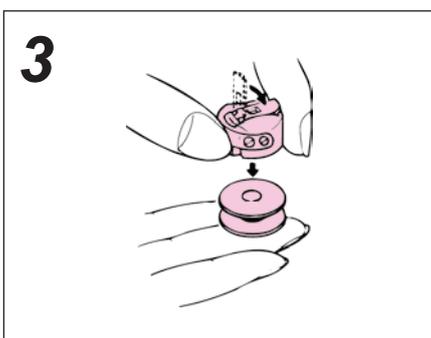


⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にしてください。

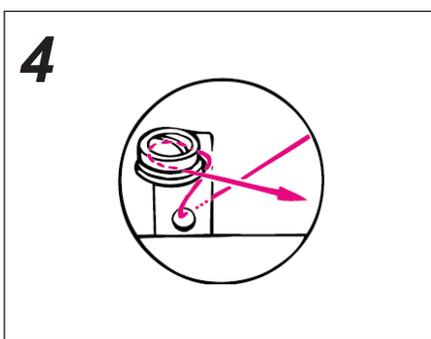
■ ボビンケースを取り出します。

針を上げます。かまカバーを開けてから、ボビンケースのつまみを持って取り出します。

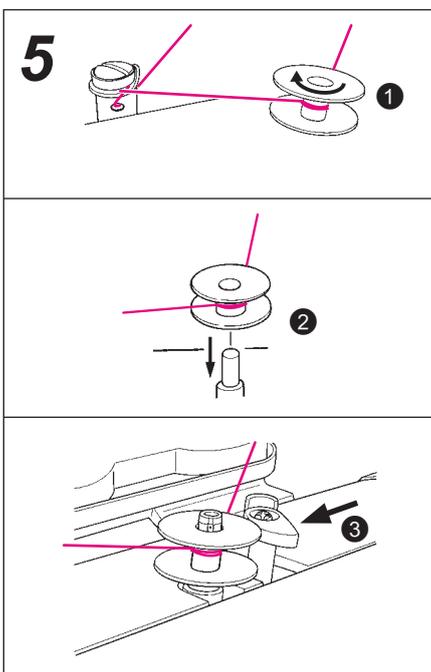


■ ボビンケースからボビンを取り出します。

つまみをカチッと元にもどし、ボビンケースからボビンを取り出します。

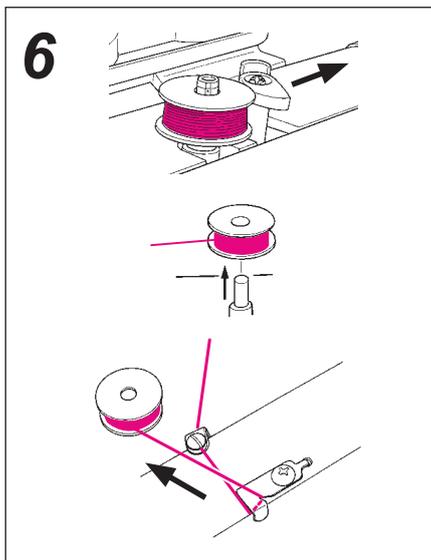


■ 下糸巻き案内に糸をかけます。



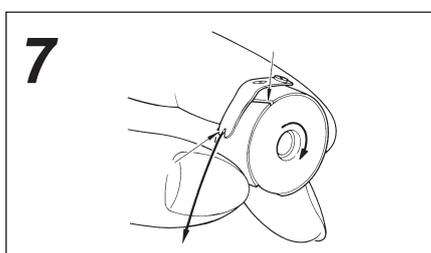
■ ボビンを取り付けます。

- ① 時計回りに数回、ボビンに糸を巻き付けます。
- ② 下糸巻き軸にボビンを差します。
- ③ ボビン押えをボビンに当たるまで押します。
自動的に糸が巻かれます。



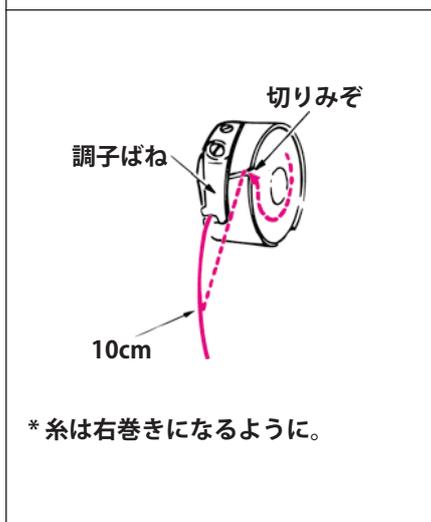
■ これでボビンへの糸巻きは完了です。

糸巻きが終わるとボビン押えが矢印方向に戻ります。この状態でボビンを下糸巻き軸から取り外します。
糸切り固定板で糸を切ります。

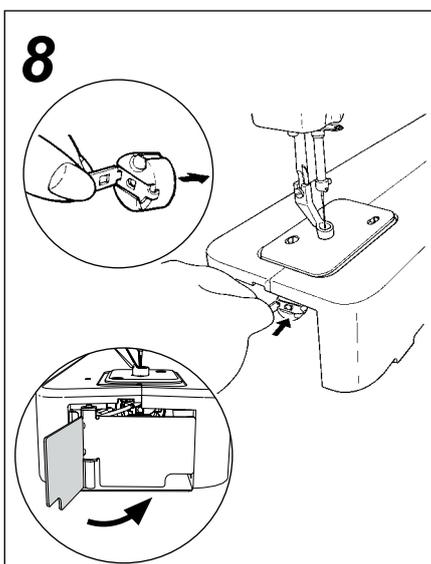


■ ボビンケースにボビンを入れます。

糸が右巻きになるようにボビンを持ってボビンケースに入れます。
切りみぞに糸をすべり込ませてから調子ばねの下へくぐらせ、糸を10 cmほど出しておきます。



*糸は右巻きになるように。



⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にしてください。

■ ミシンにボビンを取り付けます。

つまみをいっぱい開いてボビンケースをかまに差し込んだあと、つまみを元に戻します。
かまカバーを閉じます。

下糸巻き案内の調整

正しい



均等に糸が巻かれていないと、糸調子不良の原因となります。

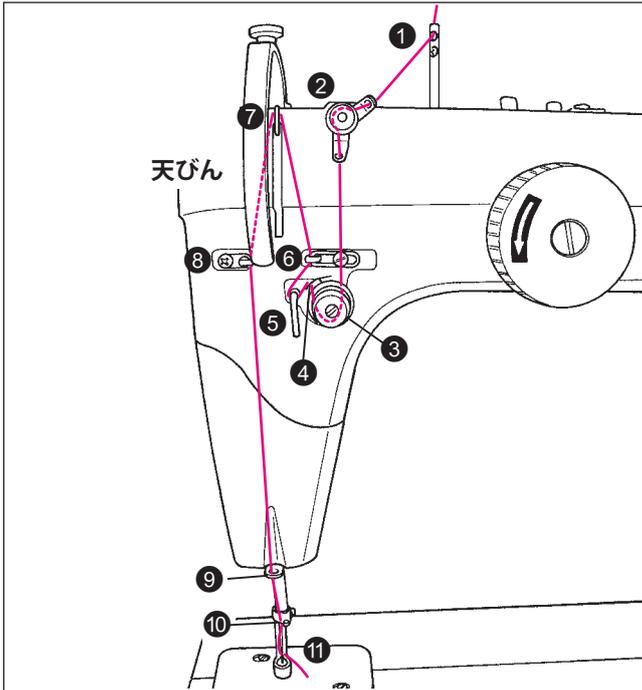
	<p>下に向かうほど厚くなっている</p>	<p>調整するため、下糸巻き案内のネジをゆるめます。</p>	<p>↑ 上げる</p>
	<p>上に向かうほど厚くなっている</p>		<p>↓ 下げる</p>

上糸を通す

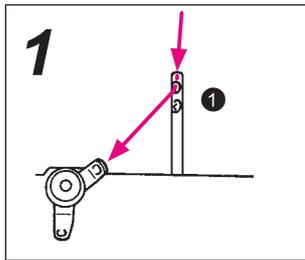


注意

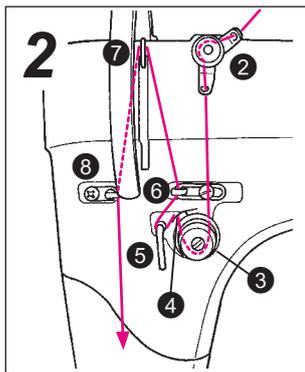
上糸を通す前に、必ず電源スイッチを「切」（○側）にしてください。



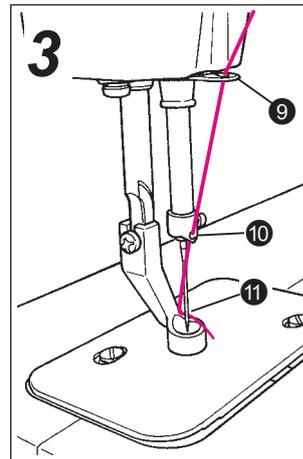
* 天びん⑦を最上位点付近（はずみ車（プーリー）の白い印を真正面に合わせる）にして、上糸を通してください。



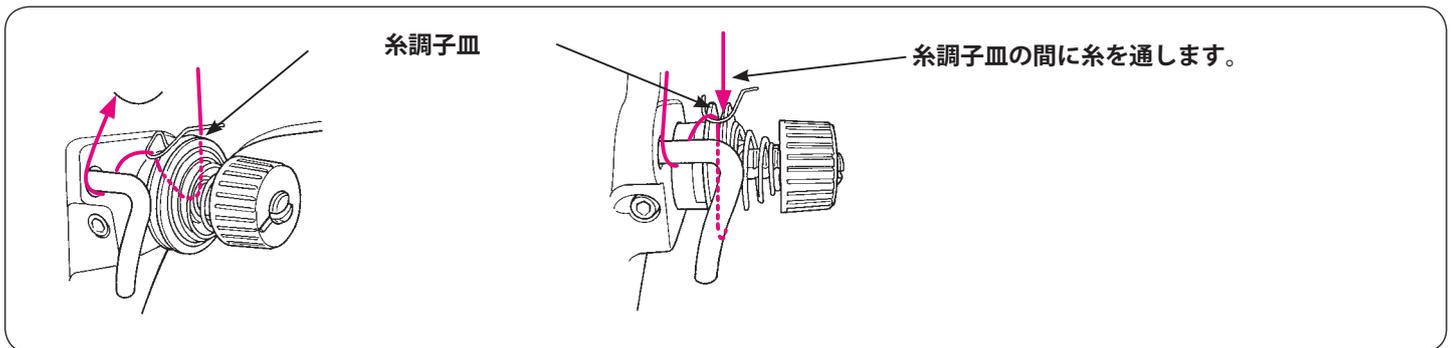
■ 糸案内棒①に糸を通します。



■ ②から⑧の順番で、ミシンに糸を通します。



■ 針棒糸案内⑨と針棒糸掛け⑩に糸を通し、針⑪に糸を通します。



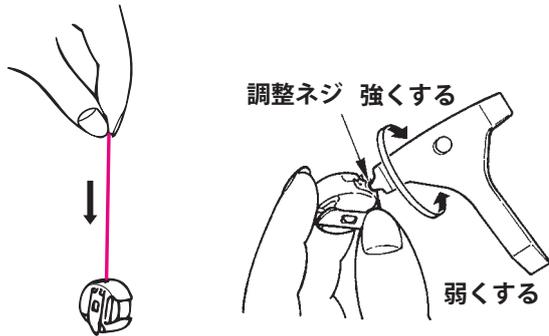
糸調子を調整する



注意

ボビンケースの取り出しや針の交換を行う前に、必ず電源スイッチを「切」(○側)にしてください。

・ボビンケースの調整



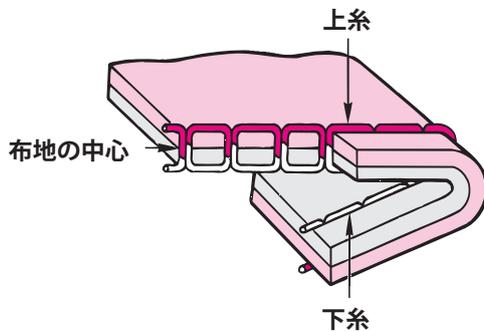
適切な糸調子の目安としては、図のようにボビンケースにボビン(綿糸 TEX40)をセットして糸の端を持った時、ボビンケースの重さでゆっくりと下がる程度です。

* 下糸の強さによって、上糸の強さを調整します。

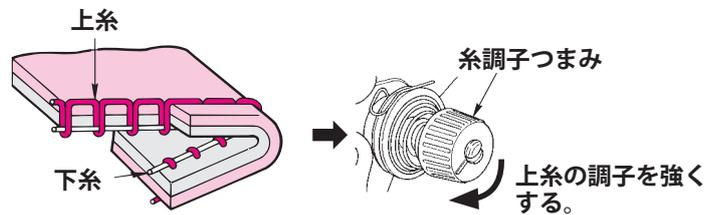
* TL-2200QVP用ボビンケースは、JUKI専用品です。ご購入の際はJUKI販売店にお問い合わせください。

・適切な糸調子

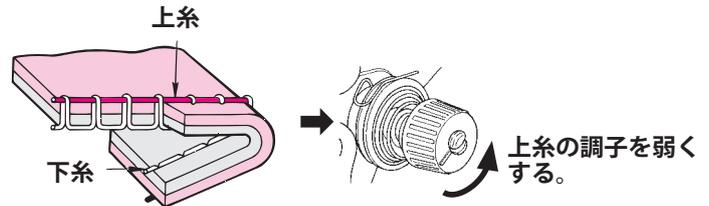
糸調子が正しく調整されていないとぬい目がきたなく、布地にしわがよったり糸が切れたりします。

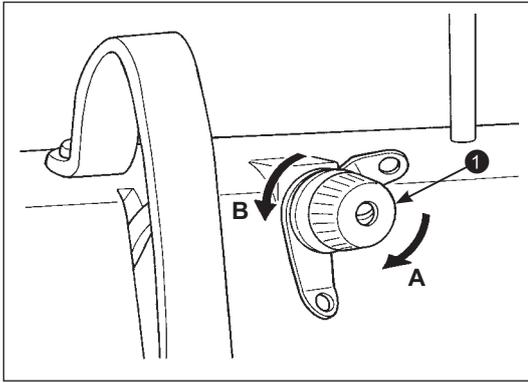


上糸の調子が弱い場合



上糸の調子が強い場合





■ 第一糸調子つまみ

第一糸調子つまみ①を右Aに回した時、糸切り後に残った糸の長さが短くなります。左Bに回した時は、残った糸の長さが長くなります。

* ぬい始めには、数針の返しぬいを行ってください。

布地・糸・針の関係

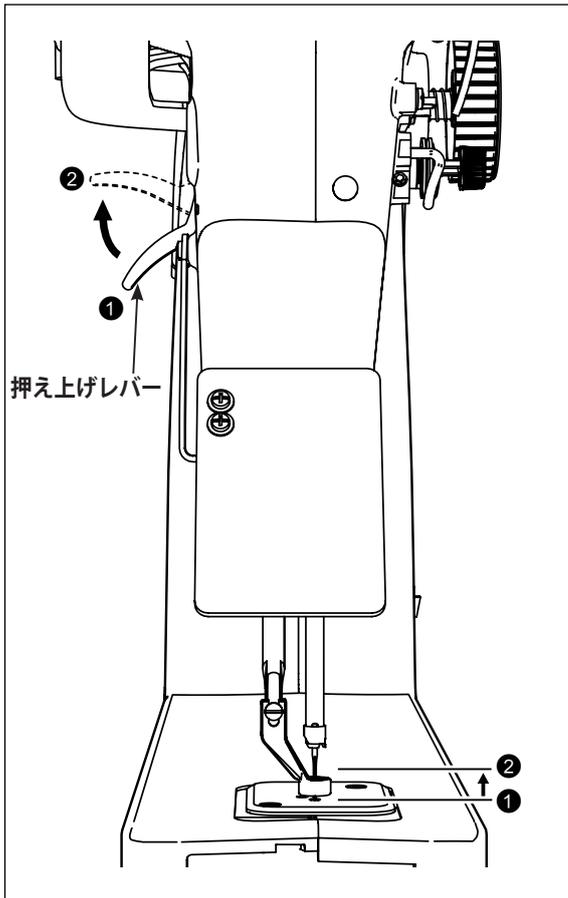
布地	糸	針
綿ブロード*2 + キルト綿	ミシンキルト糸 (綿) #20~#100	#18

* 針や糸は、実際にぬう布のはぎれを使って、必ず試しぬいをして仕上がりを確かめてください。

* メタリック糸などの引っかかりやすい糸を使うときは、ぬい速度を下げてください。

* 糸の種類によっては、ミシンの糸切りでうまく切れません。その場合は、はずみ車(プーリー)方向に数針ぬってから、糸切りを実施してください。

押え上げレバー



■ 押え上げレバー

押え上げレバーを上げたり下げたりすることで、押えの位置を上位置または下位置にできます。

① 下位置... 縫製中の押えの位置。

② 上位置... 布地をミシンに置くときや、縫製後の布地をミシンから取り除くときの押えの位置。

* ぬい始める前に、押え上げレバーを下げてください。押え上げレバーを上げたままぬい始めると、針折れや縫製不良、ミシンが故障するおそれがあります。

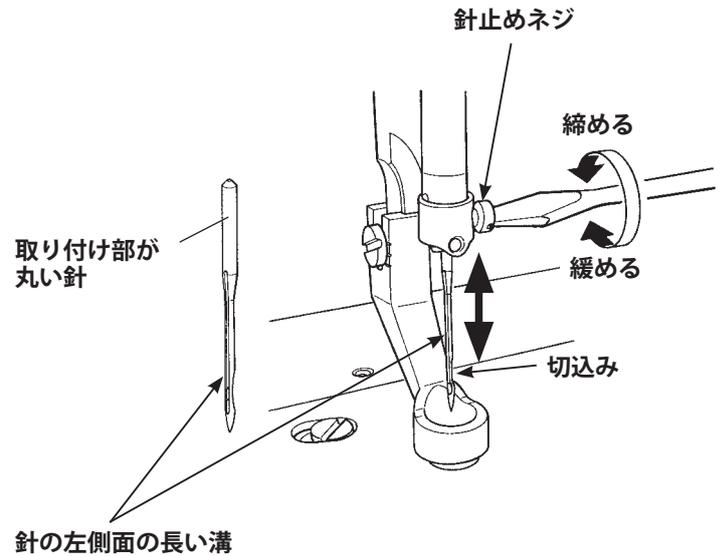
針を取り付ける

⚠ 注意

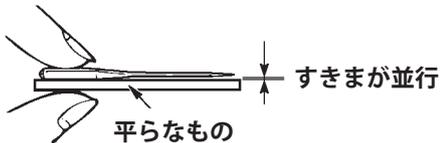
電源スイッチを「切」(○側)にしてください。

針を取り付ける

1. 電源を切ります。
2. 押えを下げます。
3. 針棒を最上位まで上げます。
4. 針側面の長い溝を左にして、針棒にいっぱいまで差し込みます。針止めネジを締めます。

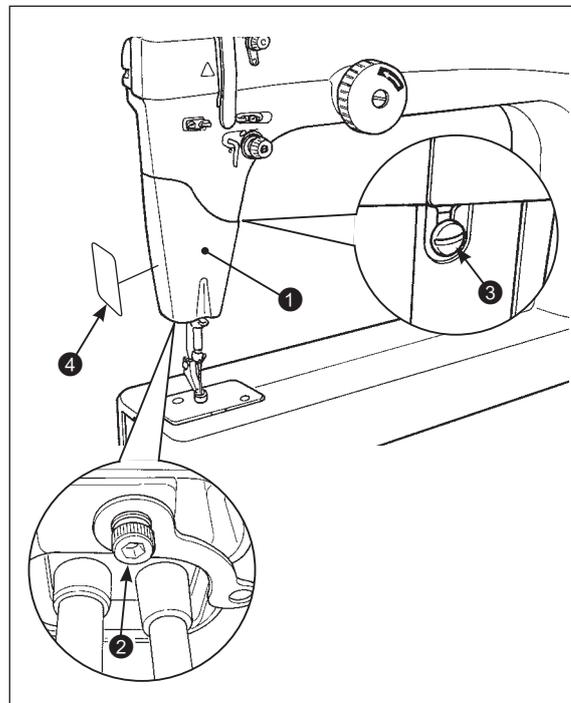


針の点検



- ときどき、針が曲がっていないか確認してください。不良針を使用すると、針が折れたり、ぬい目が飛ぶ、糸が切れるまたは布が破れるなどの不具合が起きるおそれがあります。

お手入れ



■ マスキングシールを交換する

⚠ 注意

電源スイッチを「切」(○側)にして、コンセントからプラグを抜いてください。

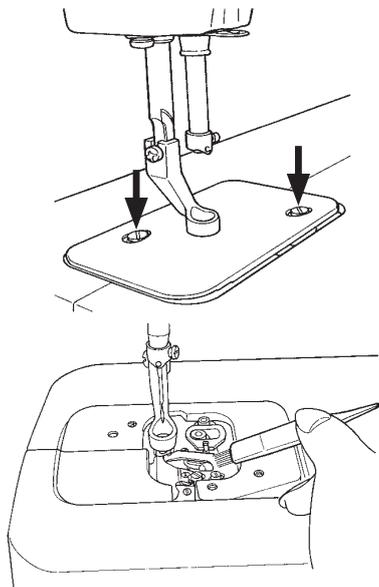
1. LEDカバー①から、2個の止めネジ②と③を外して、LEDカバーを下げます。
2. 汚れたマスキングシールをはがし、所定の位置に新しいマスキングシール④をはります。

ミシンのお手入れと注油

⚠ 注意

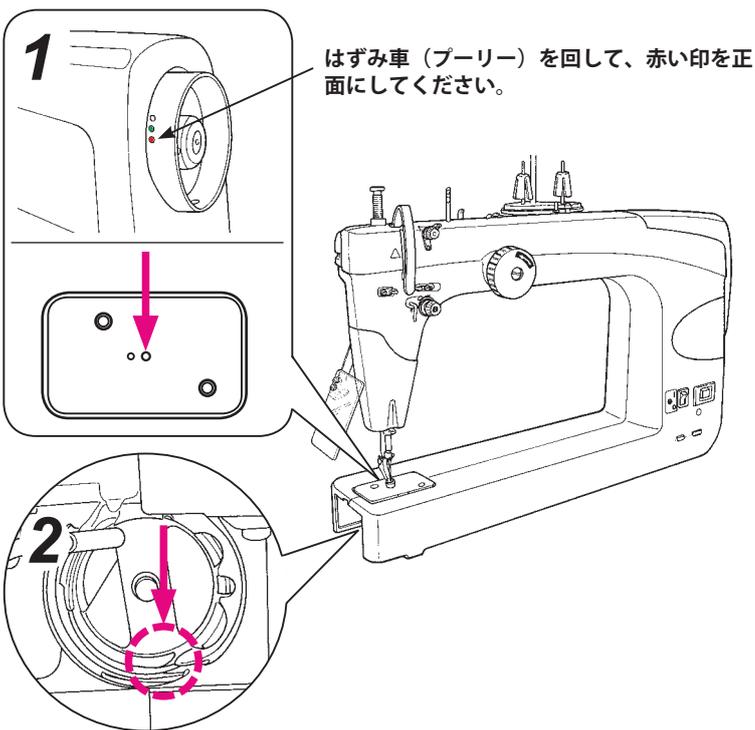
掃除や注油を行うときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

かまの掃除



- 電源スイッチを切り、針を取り外します。
- ネジをゆるめて、針板を外します。
- メスユニットや内がまの周辺の糸くずやほこりを、掃除用ブラシを使ってきれいにします。

ミシンへの注油



はずみ車（プーリー）を回して、赤い印を正面にしてください。

⚠ 注意

1. 油が目に入った場合は、すぐに水ですすいでください。誤って飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
2. お子様の手が届かない場所で保管してください。
3. 廃油する場合は、自治体の条例に従って廃油してください。

ミシンへの注油方法は2種類あります。どちらか選んで注油してください。

- 1**
 1. ボビンケースを外してから注油します。
 2. ミシンを真横から見た時に、赤い印が真正面にくるようにはずみ車（プーリー）を回します。
 3. 矢印で示す穴に、1、2滴注油します。
- 2**
 1. ボビンケースを外してから注油します。
 2. 矢印で示す場所に、1、2滴注油します。

- マシンに付属の潤滑油（New Defrix Oil No.1または類似品）を使用してください。
- 注油後、かま全体に油が行き渡るようにはずみ車（プーリー）を回します。
- 毎日使用する場合は、1日1回注油してください。
- 開封後、または長期間使用しなかったときは、通常よりも多め（5～7滴）に注油してください。注油量が多すぎると、油が布に付くことがあります。針板とかま部分へは過剰に注油しないように注意してください。
- 注油後は、必ず試しぬいをしてください。

困ったとき

縫製に問題がある場合は、手順が正しいか確認してください。問題が解決しないときは、以下のトラブルシューティングを確認してください。

症状	原因	対処	ページ
ぬい目がとぶ。	1. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	・ 針を交換してください。	26
	2. 針が正しく針棒に付いていない。	・ 針棒に正しく針を取り付けてください。	26
上糸が切れる。	1. 上糸の通し方がまちがっている。	・ 上糸を正しく通してください。	23
	2. 上糸調子が強すぎる、または弱すぎる。	・ 糸調子を調整してください。	24
	3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	・ 針を交換してください。	26
	4. 糸に適した針を使っていない。	・ 使用する糸に適した針に交換してください。	26
下糸が切れる。	1. 下糸調子が強すぎる。	・ 下糸調子を弱くしてください。	24
	2. 使用するうちに、ボビンケースのバネにすきまができてしまった。	・ ボビンケースを交換してください。	-
	3. 針板の穴の周辺にキズがある。	・ 針板を交換してください。	-
針が折れる。	1. 針が曲がっていたり、正しく取り付けられていない。	・ 針を交換または正しく取り付けてください。	26
	2. 針が針板や押えに当たる。	・ 針、針板、押えを正しく取り付けてください。	-
布地にしわが寄る。	1. 上糸と下糸の調子が合っていない。	・ 糸調子を調整してください。	24
	2. 針と糸の組み合わせがわるい。	・ 適切な針と糸の組み合わせを調べてください。	25
	3. 布地が厚すぎる。	・ 使用する布地に適した針に交換してください。	25
ぬい目がつる。	1. 上糸と下糸の調子が合っていない。	・ 糸調子を調整してください。	24
回転音が重い、または、音が高い。	1. かまに糸クズがたまっている。	・ ミシンのお手入れをしてください。	27
はずみ車が滑らかに回らない。または、電源が入らない。	1. かまの中で糸がからまっている。	・ かまに注油してからはずみ車（プーリー）を時計回り、反時計回りに数回まわし、かまに巻き込まれた糸を取ってください。	-
ぬい始めない。	1. 糸の残りが少ない。	・ 第一糸調子つまみを緩めて（左に回す）、自動糸切り後の糸の長さを長くしてください。	25
	2. 返しぬいをしていない。	・ 針穴に通した糸が約5cm残るように糸を引き出してください。 ・ ぬい始めには、返しぬいを数針ぬってください。	- 25

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望が
ございましたら、お買い上げのお店、
または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日（月～金）9:00～12:00、13:00～17:45

Copyright © 2015 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼される時お役に立ちます。

電話（ - - ）
購入年月日： 年 月 日